

黄体形成ホルモン(LH)		1003000			
		担当部署			
LH		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		特記事項なし			
検体採取の特別なタイミング		負荷試験時や日内変動採血指示などの指示がある場合、指示通り			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		別紙参照				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	mIU/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		<p>黄体形成ホルモン(LH)は FSH とともに下垂体より分泌されるゴナドトロピンである。卵巣や精巣などの性腺を刺激して性腺機能を維持する働きがあり、LH-RH による刺激と性ステロイドホルモンによるフィードバックによりコントロールされている。</p> <p>また、下垂体自体は視床下部や性腺などの他の分泌臓器とネットワークを組んで機能しているため、LH 測定はその把握にも役立つ。</p> <p>三菱化学メディエンス 検査項目解説 改訂第 4 版 221</p>				